

JST さくらサイエンスプラン 「共同研究コース」8名の受け入れ(複数年交流)

勝又 美穂子

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門 特任准教授

2017年11月15日～12月5日の3週間に渡り、当研究所6度目となる、JST さくらサイエンスプランの支援による海外学生の受け入れを行いました。今回は国立台湾大学(台湾)から2名、モンクット王トンブリ工科大学(タイ)から2名、インド工科大学ハイデラバード校(インド)から4名、合計8名を招へいしました。招へいは昨年度より開始されているさくらサイエンスの「複数年」交流のスキームを利用しての実施でした。本交流は向こう3年間の交流計画で実施され、昨年度に続き本年度は2回目の招へいとなりました。本交流では、毎年来訪する参加者の共同研究を通して、最終的に一つの大きな成果に到達することが期待されています。

3週間の滞在中、参加者はそれぞれ当研究所の田中研究室、近藤研究室、内藤研究室、伊藤研究室、西川研究室に配属され、粉末冶金、低温はんだ付け、アーク溶接に係る熱量のコントロールや可視化などの研究に従事しました。

活動初日と二日目にはオリエンテーション、当研究所施設見学、及び受け入れを行う各研究室の

研究紹介などを行いました。最新機器が揃う当研究所の施設見学では各機器の利用法や用途について活発な質問があり、熱心に施設見学を行いました。

12月4日(月)には当プログラムの最終報告会を開催し、各参加者は3週間の研究報告を行いました。

実施後に受け取った参加者からのコメントでは、「日本におけるあらゆる面の規則正しさに驚き、非常に快適であった」、「町でも日本人が非常に親切であり、言語のコミュニケーションにおける難しさの一方で、安心して滞在できた」、「研究所の最新機材を自由に利用できる研究環境で、たくさんのインスピレーションを受け、自分の今後の研究生活に大変な刺激になった」など、多数のポジティブなコメントがありました。

複数年交流スキームを利用した活動により、連携先の海外大学も本活動に対する理解を深めていることから、交流を通し更なる成果が出ることが期待されます。



最終報告会を終えて、集合写真